

平成 23 年 8 月 1 日

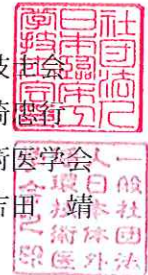
会員各位

社団法人 日本臨床工学会

会長 川崎 豊行

一般社団法人 日本体外循環技術医学会

理事長 吉田 靖



酸素ボンベと二酸化炭素ボンベの取り違い防止に対する緊急提言

酸素ボンベと二酸化炭素ボンベの取り違いに起因する事故の防止対策につきましては、同様事故が繰り返し発生することから平成 14 年 5 月日本医療ガス協会会長から「医療用二酸化炭素容器用バルブのガス別特定化に伴う連結導管・圧力調整器部品の交換についてのお願い」が出され厚労省からも平成 21 年 3 月「医療の用に供するガス設備の誤接続防止対策の徹底について」が発出され注意喚起がなされていたところでございます。

当会の調査によりますと、これまで推奨されてきたヨーク式接続部においても取り違い事故が発生する可能性が判明致しました。これは、ヨーク接続部品・減圧弁・流量計を介して術野に CO₂ を流し吹き付ける等の使用がされている事から流量計後は酸素使用と同様に接続が可能な状態となり取り違いが発生する可能性があると思われます。

臨床工学技士が多く関与する業務領域の心臓血管外科では、このような使用方法が行われている実態があることから、これまで推奨されてきたボンベの誤接続対策では不十分と考えられるため、以下の緊急安全対策を提言いたします。

会員各位におかれましては、本提言を参考にいっそうの安全対策を講じられますようよろしくお願いいたします。

記

1. CO₂ ボンベをシーリングアームなどへ装着し搬送時に使用できないように収納位置を固定（常備）する。
2. 減圧弁・流量計を接続する CO₂ ボンベは大容量ボンベを使用し搬送時に容易に持ち出せない状況とする。
3. CO₂ 流量計の接続部分にビニルチューブを取り付けて密着固定し酸素チューブを接続しようとしても容易に接続できないようにする。
4. 医療ガスボンベが混在しないよう、種類ごとに保管場所を規定し管理する。
5. 呼吸補助が必要な患者の搬送時には心電図、呼吸モニター（SpO₂、ETCO₂ 等）をモニタリングする。

以上

別添

◎ヨーク接続部品・減圧弁・流量計接続例



二酸化炭素ポンペにヨーク式接続部を使用しているも、接続部品・減圧弁・流量計を取り付けると流量計後は酸素チューブ等が接続できてしまう。

◎搬送時に使用できないように収納位置を固定

シーリングアームへ装着し収納位置を固定し搬送時に使用できないようにする。



◎CO2 流量計の接続部分にビニルチューブを取り付けて密着固定



CO2 流量計の接続部分にビニルチューブを取り付けてタイ等により密着固定し容易に外れないようにする。